

沖縄作戦に於ける

独立混成第44旅団第2歩兵隊本部史実資料

昭和22年3月25日

第32軍残務整理部

部隊経歴の概要

- 昭和19年6月 8日 西部第17部隊に於いて独立混成第44旅団第1歩兵隊を編成動員完結
- 6月18日 屯営出発鹿児島に向かう
- 自6月19日
- 至 23日 鹿児島市第7高等学校滞在
- 24日 鹿児島港より富山丸に乗船
- 27日 鹿児島港出帆
- 29日 徳之島沖に於いて敵潜水艦の攻撃を受け富山丸沈没、生存者約200名殆ど負傷奄美大島陸軍病院に入院其の他行方不明
- 7月 5日 部隊長以下60名奄美大島出発
- 7日 沖縄県那覇港上陸
- 自9月 6日
- 至 12日 独混44旅団第1歩兵隊並びに第2歩兵隊を合し尚沖縄現地兵を加え独混第44旅団第2歩兵隊を編成動員完結  
(於国頭郡名護市第3中学校)
- 12日 各大隊警備地区左の通り
- 第1大隊 (井川大隊) 本部地区
- 第2大隊 (佐藤大隊) 名護地区
- 第3大隊 (尾崎大隊) 八重嶽地区

以上区域に於いて戦闘訓練並びに陣地構築に従事。

- 自 9月18日  
至10月 2日 部隊全員伊江島飛行場設定作業に従事す。  
3日 再び前記担任警備地区に於いて専ら陣地構築並びに訓練を為す。  
8日 名護第3中学校より本部町伊豆味国民学校に移転す。(部隊本部)  
10日 沖縄本島(南西諸島全域)空襲。  
変更す  
第一大隊(井川少佐)伊江島警備  
第一大隊(佐藤少佐)本部地区  
第一大隊(尾崎大尉)独混44に配属  
従って国頭郡一円の警備兵力は第2大隊のみとなる。  
第2歩兵隊長宇土大佐国頭支隊長となり沖縄本島、中頭郡嘉手納以北の全域の警備を担当す。
- 昭和20年3月23日 午前7時より連日連続空襲を受く。  
26日 米軍慶良間列島上陸開始。  
甲号戦備下令。  
29日 米軍嘉手納に上陸開始 ?  
4月 1日 米軍許田に上陸開始北上す。  
自4月 2日  
至 16日 本部半島八重嶽を中心に激烈なる戦闘に参加、多くの戦死傷者を出す。  
3月25日 作戦計画に基き部隊2ヶ月分糧秣をタニヨ岳に転送を終わる。  
4月16日 軍命令による作戦計画に基き本部半島

—43—

2872

よりタニヨ岳に転進す。

22日 途中幾多敵の攻撃を受けタニヨ岳に到着す。

23日 タニヨ岳を中心に激烈なる戦闘を為す

25日 死傷者多数。

26日 軍命令による作戦計画に基く遊撃戦に移る為タニヨ岳より北方山岳地帯に転進す。

無線通信機破壊せらる。

29日 内福地に於いて敵の攻撃を受け戦闘をなす。

戦死傷者10数名。

30日 糧秣等の関係もあり本格的遊撃戦に転ずる為部隊本部は慶佐次に在りて残存部隊は数ヶ所に分駐す。

瓜生中尉以下23名 伊湯岳附近

西村中尉以下26名 ソシケヤ附近

東郷少尉以下31名 有銘附近

山本中尉以下 6名 新川附近

自 30日

至10月 1日 糧食弾薬の欠乏を克服し連夜挺身斬り込遊撃戦を実施す。

2日 米軍の勧告により日本は8月15日停戦米軍に降伏せるを確認し当日米軍の指揮を受け屋嘉収容所に入る。

要図1～3省略